

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
経専北海道どうぶつ専門学校	昭和54年3月1日	中田 靖泰	〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目4-3 (電話) 011-823-0111																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人経専学園	昭和48年4月24日	倉田 恵	〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目4-8 (電話) 011-824-1000																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
商業実務	商業実務専門課程	ペットプロデュース学科(動物看護師科)	平成22年文部科学省告示第153号	-																			
学科の目的	本校は教育基本法及び学校教育法に則り、動物業界に携わる有能な人材を育成するとともに、人格教養を身につけた社会人を育成することによって、動物業界の発展に寄与することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	昼間	2303時間	1076時間	60時間	1167時間	時間	時間																
2年	生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
	180人	25	0人	3人	9人	12人																	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 前期・後期において試験を実施し100点を満点として50点以上をもって合格とする																	
長期休み	■学年始：4月1日 ■夏季：7月18日～8月20日 ■冬季：12月18日～1月21日 ■学年末：3月31日			卒業・進級条件		学年ごとに修了すべき科目について試験を行い合格者に対して当該科目の終了を認定する。但し、学年ごとの総授業時間数の90%以上を出席していなければならない。																	
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 年間2回以上の個別面談を行い、学修状況の確認、就職指導を行っている。			課外活動		■課外活動の種類 特に無し ■サークル活動：無																	
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 動物病院			主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>経専学園認定グルーマーライセンス</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>動物看護師統一認定試験</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> </table>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士2級	③	9人	9人	経専学園認定グルーマーライセンス	③	9人	9人	動物看護師統一認定試験	③	9人	9人
	資格・検定名	種	受験者数					合格者数															
愛玩動物飼養管理士2級	③	9人	9人																				
経専学園認定グルーマーライセンス	③	9人	9人																				
動物看護師統一認定試験	③	9人	9人																				
■就職指導内容 履歴書の書き方、面接練習、挨拶マナー指導など			■卒業者数 10人		■就職希望者数 9人		■就職率 100%																
■卒業者数 10人			■就職希望者数 9人		■就職率 100%		■卒業者に占める就職者の割合 90%																
■就職率 100%			■卒業者に占める就職者の割合 90%		■その他																		
(平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成29年4月1日時点において、在学者24名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者24名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由			■中退率 0%																			
■中退防止・中退者支援のための取組 担任体制による定期的個別面談の実施、スクールカウンセラーの配置など																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付：給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0名																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://www.keisen-doubutsu.com/course/pro-trimmer/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めず、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 カリキュラム編成に関して、企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図り、専修学校教育に必要な最新の知識・技術を反映するための連携体制を確立するために、教育課程編成委員会を学校長のもとに位置付ける。学校が編成したカリキュラム案を教育課程編成委員会に提案し、教育課程編成委員会は改善のための意見・助言を学校長に報告し、これを学校長が審議し、判断をすることとしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月3日現在

名前	所属	任期	種別
児島 正己	愛犬倶楽部	平成29年11月1日～平成31年10月31日(2年)	③
大島 千尋	NPO法人 日本社会福祉愛犬協会	平成29年11月1日～平成31年10月31日(2年)	①
森下 啓太郎	北海道大学動物医療センター	平成30年3月1日～平成32年2月28日(2年)	③
高林 賢一	経専北海道どうぶつ専門学校		
高橋 大	経専北海道どうぶつ専門学校		
石井 さより	経専北海道どうぶつ専門学校		
青木 美帆	経専北海道どうぶつ専門学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催

(開催日時)

平成28年3月15日 16:00～17:00
 平成28年12月22日 16:00～17:00
 平成29年3月21日 10:00～11:30
 平成29年7月31日 10:00～11:30

平成30年3月22日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

大学の獣医科では、コミュニケーション関連の授業が全く無かったが、2年前から問診のシュミレーションを行う授業を取り入れ、テストに合格した者のみ実習に行けるカリキュラムを組んだ。この事により、コミュニケーション能力の向上が図られた為、実践的なカリキュラムを取り入れることが必要と提案頂いた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施している。また、業界の動向やその職業に従事するにあたって必要な知識、技能、能力や態度について実感をもって理解させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学内で得た知識・技術を通してより確かなものにすることや、現場に身を置き仕事の仕組み・流れを理解することを目的とし、関連業界企業と連携し実習を実施する。学修成果の評価にあたっては、「評価票」に挨拶、積極性、仕事の質、身だしなみ、言葉使いなどについての評価項目をあらかじめ設定し、修得状況や実習態度の観点で5段階評価を行っていたことにしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習	各企業に出向き、各地域、各分野の企業の目的・仕事内容について学びながら、総合的な仕事ができる為の基礎能力を養うことを目的とする。主に掃除、接客・販売方法、トリミング時の時間配分、生体管理時にも注意点、看護師ノウハウ、訓練所での厳しさ、社会人マナーなどを就職する前に事前に習得・体験させる。	ペットハウステンテン、ペットランド、ワンダードッグ、緑ヶ丘動物病院、シーアニマルクリニック他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 本校教育理念及び教育方針・指針に基づき、教育養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために「教職員研修」を実施する。
 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する。
 ・教育支援活動として協力いただいている企業と連携し、「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換会を実施する

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名	対象	概要	主催企業	実施時期
ペットショップ研修	教員	協力企業を訪問し、企業担当者よりペットショップの現状・特徴などをレクチャーして頂き、現在の施設・設備の説明を受けることにより、最新の業界知識を得ることを目的として実施している。	ペットハウステンテン	H29.5.18
動物園研修	教員	旭山動物園を訪問し、動物園の現状や飼育員の業務内容などの理解を深めるとを目的として実施している。	旭山動物園	H29.6.2
動物管理センター研修	教員	札幌市動物管理センターを訪問し、現状の犬・猫等の保護や殺処分の状況についてレクチャーして頂き、現在の施設・設備の説明を受けることにより、最新の知識を得ることを目的として実施している。	札幌市動物管理センター	H29.10.12
小動物獣医師会研修	教員	北海道小動物獣医師会が主催する年次大会に参加し、小動物医療の現状や獣医師によるセミナーに参加することにより、最新の動物医療に関する知識を得ることを目的に参加している	北海道小動物獣医師会	H29.11.4

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名	対象	概要	主催企業	実施時期
教員研修	教員	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図る為、教育関連に即した講師から講義を受講することにより、授業方法、学生指導に役立たせる。	北海道専修学校各種学校連合会	H29.7.21

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名	対象	概要	主催企業	実施時期
ペットショップ研修	教員	協力企業を訪問し、企業担当者よりペットショップの現状・特徴などをレクチャーして頂き、現在の施設・設備の説明を受けることにより、最新の業界知識を得ることを目的として実施している。	ペットハウステンテン	H30.5.17
動物園研修	教員	旭山動物園を訪問し、動物園の現状や飼育員の業務内容などの理解を深めるとを目的として実施している。	旭山動物園	H30.6.1
動物管理センター研修	教員	札幌市動物管理センターを訪問し、現状の犬・猫等の保護や殺処分の状況についてレクチャーして頂き、現在の施設・設備の説明を受けることにより、最新の知識を得ることを目的として実施している。	札幌市動物管理センター	H30.10.11
小動物獣医師会研修	教員	北海道小動物獣医師会が主催する年次大会に参加し、小動物医療の現状や獣医師によるセミナーに参加することにより、最新の動物医療に関する知識を得ることを目的に参加している	北海道小動物獣医師会	H30.11.4

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名	対象	概要	主催企業	実施時期
教員研修	教員	専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図る為、教育関連に即した講師から講義を受講することにより、授業方法、学生指導に役立たせる。	北海道専修学校各種学校連合会	H30.7.24

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育人人材像は定められているか ②学校における職業教育の特色は何か ③理念・目的・育人人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③人事、給与に関する規定等は整備されているか
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②授業評価の実施・評価体制はあるか ③成績評価、進級・卒業判定基準は明確になっているか

(4) 学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③進学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③保護者と適切に連携しているか
(6) 教育環境	①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は伝えられているか ③学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	①予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ②財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員から、学校教育の理解を高める為、企業等の関係者に授業を見てもらうことはできないかとの意見があり、実施方法を検討していくことになった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月3日現在

名前	所属	任期	種別
加藤 聖也	株式会社ベットハウステン・テン	平成30年7月1日～平成32年6月30日(2年)	企業等委員
谷口 理緒	ラブワンコ	平成30年7月1日～平成32年6月30日	卒業生
木田 武	セブンイレブン札幌自衛隊前店	平成30年7月1日～平成32年6月30日	企業等委員
能代 茂	学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学 明清高等学校	平成30年7月1日～平成32年6月30日	学校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()) 6月
URL:<http://www.keisen-doubutsu.com/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を提供することを目的として、企業等の学校関係者に対し、「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則った情報を積極的に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	「学校所在地、連絡先等」「学校教育目標」
(2) 各学科等の教育	「入学定員」「カリキュラム」「卒業後の進路」「目指す資格」
(3) 教職員	「教員数」
(4) キャリア教育・実践的職業教育	「就職支援等への取り組み状況」
(5) 様々な教育活動・教育環境	「学校行事への取り組み状況」
(6) 学生の生活支援	「学生・生活指導への取り組み状況」
(7) 学生納付金・修学支援	「入学者選抜の方針・方法」「学生納付金の取り扱い」
(8) 学校の財務	「財務諸表等」
(9) 学校評価	「学校関係者評価の結果」
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

・入学案内 ・ホームページ URL:<http://www.keisen-doubutsu.com/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペットプロデュース学科 <動物看護師科>) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トリミング実習Ⅰ(基礎) (1年)	様々な犬種のカットを行う	1通+2通	240				○	○		○		
○			動物行動学Ⅰ(1年)	犬の起源、分類、特徴などを学ぶ	1前	30	○				○			○	
○			解剖生理(1年)	体の構造と機能を知り、生体と関わる上で役に立つ知識を身に付ける	1前	30	○				○			○	
	○		選択科目	猫学、院内トリマー、パピー学、接遇マナー、小動物学、アニマルフォトから選択	1後+2前	60	○				○			○	
○			就職ゼミ(1・2年共通)	就職に向けて必要な知識を学ぶ	2通	60	○				○			○	
○			ホームルーム(1・2年共通)	クラスでのコミュニケーション、必要事項の連絡	2通	60	○				○			○	
○			動物形態機能学Ⅰ(1年)	体の構造と機能を知り、疾病の成り立ちと回復に寄与する専門知識を学ぶ	1通	120	○				○			○	
○			動物病理学(1年)	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する	2後	15	○				○			○	
○			動物疾病看護学(1・2年)	主に犬猫のバイタルサインと病的变化を理解する	1後+2前	105	○				○			○	
○			動物薬理学(2年)	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤を理解する	2後	30	○				○			○	
○			動物感染症学(1・2年)	主に犬猫に感染する内部寄生虫、外部寄生虫及び微生物について理解する	1後	45	○				○			○	
○			病原体・衛生管理(1年)	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解する	1後	30	○				○			○	
○			動物健康管理(1年)	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解する	1前	15	○				○			○	
○			動物栄養学(2年)	基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素について学ぶ	2通	45	○				○			○	
○			動物医療関連法規(2年)	獣医療現場及び動物関連の法規について理解を深める	2後	30	○				○			○	
○			公衆衛生学(2年)	動物の伝染病と人獣共通感染症について学ぶ	2後	30	○				○			○	
○			動物繁殖学(2年)	主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢、助産の知識を学ぶ	2後	15	○				○			○	
○			動物人間関係学(2年)	人と動物の絆(HAB)の理念と動物介在活動、介在療法、介在教育など社会活動を理解する	2前	15	○				○			○	
○			動物行動学Ⅱ(1年)	主に犬猫の発生活動、種類による特徴を知り行動様式から適正飼育とハンドリング、しつけを学ぶ	1通	60	○				○			○	
○			動物福祉論・看護学(1年)	生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を身に付ける	1前	15	○				○			○	
○			飼養管理学(2年)	小動物の適正飼育や、実験・産業・展示動物の社会的役割と目的、野生動物と環境保全を理解する	2通	30	○				○			○	
○			動物看護学(2年)	動物及び飼い主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身に付ける	2後	21	○				○			○	
○			臨床動物看護学(2年)	各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察する	2通	60	○				○			○	
○			動物入院管理(2年)	個体別及び疾患別に応じた看護力を身に付ける	2後	30	○				○			○	

○	幼齢動物・老齢動物管理（1年）	新生子期から幼年期の管理、老齢期の管理・介護を理解する	2全	15	○		○		○			
○	動物臨床検査学（1年）	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義について学ぶ	1前	30	○		○		○			
○	救急救命対応（2年）	エマージェンシーの見極めと、トリアージを理解する	2前	15	○		○		○			
○	クライアントエデュケーション（2年）	人と動物のよりよい共生を目指し、飼い主指導にいかす	2前	30	○		○		○			
○	院内コミュニケーションII（1・2年）	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付・院内コミュニケーション・電話対応を身につける	1通	60		○		○		○		
○	動物飼育実習I/トレーニング含（1年）	動物の世話を通して観察力と動物福祉の精神及び動物のハンドリングやトレーニングについて学ぶ	1前	30			○	○			○	
○	動物飼育実習II（1・2年）	動物飼育実習Iでの実践力・応用力を活かして正確性と迅速性を身につける	1後+2前	60			○	○			○	
○	動物看護実習I（1・2年）	診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技および実践力を身につける	1通	120			○	○			○	
○	動物看護実習II（2年）	生体を正しく扱う上での基礎知識、トリミングの流れ、道具、皮膚について学ぶ	2通	240			○	○			○	
○	動物臨床検査学実習I（1年）	検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。	1通	90			○	○			○	
○	動物臨床検査学実習II（2年）	動物臨床検査学実習Iでの実践力・応用力を活かして正確性と迅速性を身につける	2通	120			○	○			○	
○	外科動物看護実習I（2年）	基本的な外科実習の流れを理解し、手術準備・麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を学ぶ	2前	45			○	○			○	
○	外科動物看護実習II（2年）	外科動物看護実習Iでの実践力・応用力を活かして正確性と迅速性を身につける	2後	30			○	○			○	
○	総合臨床実習（病院実習）	診療現場での臨床経験からより実践的な看護と専門職としての意識を身につける	1後+2前	192			○		○			○
○	愛玩動物試験対策（1年）	試験合格を目指した授業を行う	1後	35	○		○				○	
合計			39科目		2303単位時間（単位）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
前、後期評定「可（50点）」以上、出席率90%以上		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。